

TIRI NEWS

Eye
Vol.61

フットマーク株式会社

緻密なリサーチと検証で実現 重さを感じにくい通学カバン

学校水泳・体育用品や一般水泳用品、介護用品などの企画、製造、販売を手がけるフットマーク株式会社が開発した、重さを感じにくい通学カバンが、成長期の体を守るカバンとして注目を集めています。

ユーザー座談会がきっかけで「重いカバン」問題に取り組む

水着や介護用品を手がけていたフットマークが、なぜ通学カバンの開発を始めたのでしょうか。そのきっかけは、ユーザー座談会の雑談で、子どものカバンが重いという話題が出たことでした。

「平均10 kgともいわれる重い通学カバンが原因で体調をくずす生徒がメディアで報道されるなど、全国的な課題になっていると気付きました。当社と取引のある学校用水着の販売店では、水着以外にもさまざまな学校用品を取り扱っていることもあり、既存の販売ルートも活かせると思いました」(佐野氏)

「重く感じない」カバンで「成長期の体を守る」ことをコンセプトにして、通学用カバンの開発は2016年に始まりました。

「最初に取りかかったのは、体のどこに負担がかかっているのかを見極めることでし

た。都産技研の技術支援を利用して圧力などの測定を行った結果、肩、腰、脇の下に大きな圧力がかかっていることが分かりました。同時に、登山用のリュックなど、重い荷物を運ぶためのカバンについても独自に研究しました」(佐野氏)

これらの検討から、体にフィットするカバンであれば、重さを感じにくいのではないかという仮説が生まれます。2本のショルダーベルトを一体縫製することで、人体にフィットするデザインを取り入れました。つくった試作品は、再び、都産技研で圧力などを測定しました。

「試作品で測定した結果、仮説が正しいことが検証できました。ショルダーベルトのほかにも、荷物を固定するブックストラップを付けるなど(特許出願中)、重さを感じにくくする工夫を随所に凝らしました」(佐野氏)

こうして開発された通学カバンは、重量対策リュック「ラクサック」として、2017年から販売が開始されています。



新たに開発した「RAKUSACK® (ラクサック) STANDARD」。背中のポケットにはレインカバーを内蔵し、腰パッドの代わりにクッションの役割を果たしているほか、上部には小物が出し入れしやすいポケットも用意。女子中学生の意見を反映し、さまざまな工夫が凝らされている。

徹底したリサーチでユーザーのニーズを捉える

市場に好意的に受け止められた「ラクサック」でしたが、女子生徒からの評価が低い点が課題になっていました。

「機能面では評価されても、女の子が好むデザインではなかったようです。そこで、女子中学生に、どのようなものを普段持ち歩いているのかなどをヒアリングしました。サンプルを見せて、デザインの好みも探りました」(佐野氏)

その結果生まれたのが「スタンダード」モデルです。女子中学生の意見を反映して、形に丸みをもたせ、背負ったときにカバンが大きく見えない工夫が施されています。発売された「ラクサックスタンダード」は高く評価されているようです。

緻密な市場調査からユーザーのニーズを引き出し、製品化する姿勢は、小学生向けのランドセル形の商品の開発にもつながっています。ユーザーの声を丹念に拾い上げ反映している「ラクサック」は、これからも進化を続けていきそうです。



「RAKUSACK® STANDARD」内部
全面ファスナーで大きく開くことができ、内張りには明るい色を採用することで、入れた荷物の視認性を高めている。



水泳用品・介護用品がものづくりの原点
1969年に新素材のナイロン製水泳帽子を開発。以降、さまざまな製品開発を通して、教育現場のニーズに応えている。



フットマーク株式会社
水泳販売部スクール部
さの れいこ
佐野 玲子氏

「ユーザーの話聞いて、無意識の部分に潜むニーズを捉えることを心がけています」